



しょうれん 力障連「わ」かい報ほう

No.77 2015.12.1 発行

二〇一五年十二月一日発行（毎週火曜日）AJU通巻二〇二四号 一九七九年八月一日 低料第三種郵便物認可 定価一〇〇円

目次

「いつくしみ」を初風に 顧問司教 前田 万葉 大司教…	1
つながりづくり 協力司祭 英 隆一朗…	2
新会長挨拶 新役員紹介…	3
嘆願書…	4
札幌大会参加者の投稿文…	5
役員会報告…	8
東京力障連（仮称）立ち上げについての お知らせとお願い…	15
	16

「いつくしみ」を初風に

第12期は新体制で新たな挑戦へー

日本カトリック障害者連絡協議会
顧問司教 前田 万葉 大司教

十 イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔

「いつくしみの特別聖年」が始まり、クリスマス、新年を迎える候となりました。「いつくしみの神が共にいてくださる」とは、なんと幸いなことでしょうか。しかし、世界では、多くの難民が寒さの中、厳しい困難に直面しているニュースが私たちの心を痛めます。

さて、日本カトリック障害者連絡協議会（以下力障連と称す）では、去る8月22日と23日札幌教区の藤女子大学において、勝谷太治司教様はじめ札幌教区の司祭、信徒の皆様との全面的なご協力をいただき、第12回力障連大会を全国約500人の参加を得て盛大裏に開催することができました。

総会では、新会長として名古屋教区信徒、江戸徹氏が選出され、新体制が船出しました。力障連は1981年ヨハネ・パウロ二世の来日機に、全国の仲間たちが教皇ミサに参加したことで集い、発足したと伺っていますが、以来33年着実に歩み、全国の小教区に豊かな福音をもたらしてきました。

ともすれば孤立し、孤独になりがちな障害がある信徒の絆としての役割を担い、連帯を育み、共に祈り、共に歩み、共に手を携えてきたと言えます。特に今、多様な価値観の社会の中で、精神障害者、知的や発達障害を負う人たちをはじめ難病に苦しんでいる人たちにとっては、とても厳しく、生活しにくい社会の中で、力障連の役割は益々大きく増しています。「あなたがたの父があわれみ（いつくしみ）深いように、あなたがたもあわれみ（いつくしみ）深い者となりなさい」（ルカ6・36参）という、いつくしみの門を開きましょう。

私たちは、信徒だけでなく社会の片隅で悩

苦しんでいる人々も温かく迎え入れられる共同体を創らなければなりません。豊かで平安に満ち、安らぎのある社会こそ真に福音に満ちたいつくしみの共同体といえますし、力障連はその先頭に立って様々な活動を積極的に取り組んでいこうとしています。

力障連が活動をさらに進化させるには多くの資金が必要ですが、力障連も大きな困難を抱えています。全国の皆様には是非ご支援とご理解をいただき、より有効な活動を目指していけるようご協力をお願いいたします。

「いつくしみを新体制の初風に」と祈りつつ、どうぞ、みなさま、良いクリスマスと新年をお迎えくださいますように心から願っています。

つながりづくり

協力司祭 英 隆 一 朗

夏の全国大会では札幌の方々の尽力で大成功を収めたことをうれしく思っています。実行委員の方々、ありがとうございます。また、前会長と前役員の方々のみなさま、お疲れさまでした。これから、新しい会長と役員の方々のみなさま、よろしく願います。

私自身は、教会の仕事に拘束されていて、なかなか仲間の集まりに顔を出せないのを残念に思っています。それでも、できる限り応援していきたいと思っています。

力障連の集まりに出て、心配になることがあります。それは、長年かかわっている人が中心で、新しい人や若い人が少ないということです。これは日本の教会全体が抱えている

問題と符合しているのでしょうか。教会全体もなかなか若い人や新しい人が増えない現状があります。力障連とその関連団体に、新しい会員を迎えるのが困難な時代になっているからこそ、私たちは仲間づくりに力を入れていく必要があると思います。

そういう意味でも、江戸新会長の方針として、1. 「全教区の障がいのある仲間を知る」、2. 「新たな加盟団体づくり」というものは大切だと思えます。たぶんカトリック教会内の障がい者の数はある一定数いるでしょう。実態が分からないですが、多くの人は孤立しているのかもしれない。まずは、そういうメンバーを捜し出していくことは大切な試みであると思えます。

ただこれが案外難しいなと感じています。現在、かなり大きな教会にいますが、顔見知りの障がい者はほんの数に過ぎません。聴覚障がい者のグループは活発に活動していて、私も定期的に話しに行っているのですが、つながりがあります（そのグループから昨年は改宗者が生まれ、今年は洗礼を受ける人がいます）。それ以外は、個人的にほんの少し知っているだけです。精神障がいの方々は多くおられますが、個人的なかわりが数名あるだけです。障がい者の方々がキリスト教に興味をもった場合、受洗するプロセスもはつきりしません（私の入門講座には、少しだけ障がい者が来られていますが）。私としては、障がい者への福音宣教はどうしたらよいのかということを考えています。

いずれにせよ、教会内外の障がい者の状況を把握することはかなり難しいです。まずはアンケート調査から始めますが、実際は、地道な方法で仲間を見だし、仲間づくりをしていくことが大切なことだと思えます。

カ障連が「連絡」とことばを付けているので、この「連絡」という面は一番大切にすべきことでしょう。もっと簡単なことばでいうと、「つながり」になるでしょう。日本の教会内外のさまざまな障がい者がつながっていく場として、カ障連が機能していくととてもよいのではないかと願っています（抽象的なことばで表現すると、ネットワーク運動理論を私は信奉しているのですが、それはいつかどこかで詳しく説明したいです）。私自身、かごの鳥のような状態で身動きできません。東京に出てきた折には、皆さまのほうがかおだしてくださるとありがたいです。現在、東京の聖イグナチオ教会にいます。JR中央線四ツ谷駅からすぐの場所なので、気軽にお立ち寄りください。よろしくお願ひします。

だい 12 期 しんたいせい おも 第12期 新体制に思う

かいちょう えど とおる
会長 江戸 徹

しゅ へいあん 十 主の平安

8月の札幌大会は、勝谷司教様はじめ場崎神父様、実行委員会、信徒の皆さんの多大なご協力のもと、細部にまで配慮の行き届いた素晴らしい大会でした。開催にご尽力をいただいた全ての方に心より感謝いたします。

また、大会に先立って行われた総会において、第12期会長の承認を受け、会長としての責任の重さを実感しているところです。

日本カトリック障害者連絡協議会は、1982

年に教皇ヨハネ・パウロ二世の来日を機に発足し「ミサへの完全参加と平等」掲げ、カトリック精神に基づき協力し合って、社会の福音化を目指して活動してきました。

しかし、弱い立場に置かれ、社会の隅に小さくされて、声を上げられず、苦しみ、救いを求めている仲間たちが、まだ多くいます。全教区に障害のある仲間はどれくらいいるのでしょうか。孤立して社会とのつながりが持たず、孤独に苦しんでいる人がどれ程いるのでしょうか。カ障連のシンボルマークにあるように、一人ひとりが集まってひとつの輪になり、互いに霊的に支え合い、キリストの精神によって一緒に歩むことができるよう働きかけます。

そのための第一歩として、アンケート調査を実施し、困っている障害当事者を一人でも多く探し、各教区にカ障連組織ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

国は、国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が制定され、来年4月1日に施行されます。

「障害者差別解消法」が施行されても、すぐに社会が変わる訳ではありません。一人ひとりが障害をもつキリスト者として、繋がりを深め、支え合い、地域で自分らしく生活していく中で、福音宣教を目指していきます。

だい き やくいん しょうかい
第12期 役員紹介
 ねん がつ にち ねん がつ にち
 2015年4月1日から2018年3月31日



こもんしきょう
 顧問司教
 おおさかだいしきょう
 大阪大司教
 まえだ まんよう
前田 万葉



きょうりよくしさい
 協力司祭
 とうきょうきょうく
 東京教区
 イグナチオ
 はなふさり ゆういちろう
英 隆一朗

かくじんきょうつう しょうぞくきょうかい しょうぞくかつどうだんたいめい やくいん ほうふ
 各人共通 ①所属教会 ②所属活動団体名 ③役員としての抱負



かいちょう えど とおる
 会長 江戸 徹 (肢体)

- ① 名古屋教区 布池教会
- ② 社会福祉法人AJU自立の家、カトリック名古屋教区 障害者連絡会会長
- ③ 上記



ふくかいちょう かたやま こういち
 副会長 片山 功一 (肢体)

- ① 東京教区 田園調布教会
- ② 東京力障連 (仮称) 発足準備会、レジオマリエ、カトリック労働者運動 (JOC)
- ③ 3年間の経験を活かして、篠原さんと共に会長の江戸さんを助けていきたいと思えます。



ふくかいちょう しのはら み え こ
 副会長 篠原三恵子 (難病)

- ① 東京教区秋津教会
- ② 東京力障連 (仮称) 発足準備会、NPO法人筋痛性脳脊髄炎の会
- ③ 障害を持っている方、病気を抱えている方たちの声に耳を傾け、

寄り添っていかれるようにと願っています。どこまでお役に立てるかわかりませんが、力を注ぎたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

※篠原さんを含めて大勢の方たちが難病が一日も早く認定されますように右記の請願書を政府に送っています。皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

筋痛性脳脊髄炎患者の支援に関する請願書

2015年 月 日

衆議院議長殿

紹介議員
氏名

印
(他 名) 住所

一、請願要旨

筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群 (ME/CFS) は、突然生活が著しく損なわれるほど強い疲労とともに、頭痛、微熱、筋肉痛、脱力感などの全身症状と、思考力・集中力低下などの神経認知機能障害が長期にわたり持続し、社会生活が困難になる病気です。その主な病態は、中枢神経系の機能異常や調節障害であり、通常ウイルス感染後に発症するというのが、欧米諸国における共通認識で、決して慢性疲労が重症化すると、本疾患を発症するわけではありません。世界保健機関の国際疾病分類において神経系疾患と分類されており、国際的に認められた診断基準が存在し、疾病概念が確立している病気です。国内の患者は24～30万人と推定されています。

この病気が原因が解明されておらず、有効な治療法もありません。専門医がほとんどいないために、診断すら受けられない人が日本中に数多くいます。さらに、慢性疲労症候群という病名ゆえに深刻さが理解されず、偏見が助長されています。

この病気により、就労困難となる患者は極めて多く、寝たきり、もしくはそれに近い重症患者もかなり存在します。国際ME/CFS学会も、患者の約25%は寝たきりに近いか、ほとんど家から出ることのできない重症患者であると発表しています。患者の現状はこれほど深刻であるにもかかわらず、身体障害者手帳を取得できる方は極めて稀で、社会的支援は不十分であるのが現状です。

2011年に改正障害者基本法が公布され、「その他の心身の機能の障害」として、障害者に慢性疾患に伴う機能障害が含まれることになりました。ところが、2013年4月に施行された障害者総合支援法の対象とならなかったために、ME/CFS患者は「制度の谷間」で苦しみ、社会保障を受ける道も閉ざされ、経済的にも日常生活を送る上でも困窮しています。

2014年には重症患者の実態調査も開始され、ME/CFS患者の置かれた深刻な状況が明らかにされようとしています。日々苦しんでいる患者を救済し、実際に患者の生活の質の向上にむすびつく研究が遂行されることを切に願うとともに、重症な患者が必要な介護・就労支援などを受けられるよう、この病気の特徴に最大限の配慮をお願いし、次の事項を請願いたします。

一、請願事項

- 客観的診断基準の確立
① 国際的に認められた診断基準を検証する研究を推進し、一日も早く日本における客観的な指標を含む診断基準を作成してください。
- 今後の障害者総合支援法の見直しにおける福祉サービスの充実
① 対象疾患の見直しにあたっては、医療費助成・治療研究の必要性とは別に、福祉サービスそのものの必要性を踏まえて議論してください。
② この病気の患者の置かれた深刻な状況を考慮し、客観的な指標を含む診断基準が確立された場合には、迅速に対象疾患の見直しを行い、日常生活に著しく支障をきたし、介護や就労支援を必要とする患者が支援を受けられるようにしてください。



事務局長 **かいの じゅんこ** 海野 淳子 (聴覚)

- ① 名古屋教区 南山教会
- ② 名古屋教区障害者連絡協議会 (力障連名古屋)、名古屋教区聴覚障害者の会
- ③ この度は江戸会長を支えるべく役員を引き受けました。経験は何ひとつ役にたちません。新たな気持ちで一つ一つ皆さんに教えていただきながら務めていきたいと思ひます。



会計 **むらかみ** 村上 かつ

- ① 名古屋教区 瀬戸教会
- ② 社会福祉法人AJU自立の家、名古屋教区障害者連絡協議会、名古屋教区聴覚障害者の会、手話サークル瀬戸、手話サークル「あけのほし」
- ③ 人生っていうのは人と人との出会い 一生の間どんな人生が決まるんじゃないですか。(高倉健のことば)
会計を担当させていただきます。会計業務をとおしてどんな出会いが待っているのか、わくわくします。どうぞ宜しくお願ひ致します。



書記 **よこい けいすけ** 横井 圭介

- ① 横浜教区 静岡教会
- ② ラルシュかな家
- ③ 役員会の中で最年少です。右も左もわかりません。「弱さ」とされているものの中にある賜物を見つけられるように思っています。



運営委員 **おの でら さとし** 小野寺 哲 (内部)

- ① 仙台教区 釜石教会
- ② 仙台教区病氣・障がい者団体連合会会長、下部組織岩手病氣・障がい者等弱者と共に歩む協議会 (岩手病障協)
- ③ イエス・キリストの道を歩む = 結論
弱い立場に置かれている人々 = 滞日・在日外国人、難民、少数民族、被差別部落の人々、障害者、病者、高齢者、子どもなどなどの内。



運営委員 **た なか みのる** 田中 実 (吃音)

- ① 大阪大司教区泉南教会
- ② 力障連大阪フレンドリー代表
- ③ 前期3年間の役員経験を活かして今期も努力します。力障連の新たな仲間づくり。



うんえいいいん 運営委員 **くほ 久保** はじめ 肇 (聴覚) ちょうかく

- ① 横浜教区 山手教会
- ② 日本カトリック聴覚障害者の会会長、横浜カトリック聴覚障害者の会会長
- ③ 力障連のために力を合わせて頑張っていきたいと思います。



うんえいいいん 運営委員 広報担当 **こいけ 小池** まさお 政男

- ① さいたま教区 高崎教会
- ② さいたま教区障がい者連絡協議会（共愛会）群馬カトリック身障者グループ（群力身）、さいたまオリーブ会、さいたま教区宣教司牧協議会、群馬使徒職協議会、NPO法人移動支援事業所勤務
- ③ 多くの方々障がいへの理解を深め共に助け合う教会と社会を目指すことと将来とも教会が存続して行けるよう福音宣教に一步踏み出すために信仰の喜びを共有していくことが出来たらと願っています。



うんえいいいん 運営委員 **まつだ 松田** としあき 俊昭 (視覚) しかく

- ① 広島教区 岩国教会
- ② 力障連広島教区島根地区山口支部長、ダミアン「輪」副会長、宣教司牧評議会委員
- ③ 役員会等には中々参加できませんが視覚障害者のために働きたいと思っています。



かんじ 監事 **たかはし 高橋** ひではる 秀治 (視覚) しかく

- ① 東京教区 町田教会
- ② ロゴス点字図書館他3か所
- ③ 早く若い人と変わりたい。



こもん 顧問 **よしだ 吉田** ひさえ 久枝

- ① 東京教区 関口教会
- ② 東京オリーブの会、東京力障連（仮称）発足準備会
- ③ ・ 障害者、病者が一人で孤立せず、仲間と出会いグループとなって力障連につながってもらえるよう、草の根運動的な仲間作りを心がけたいと思います。
・ 当事者、家族を中心とする自助、共助のグループに誇りを持ち、仲間とともにキリストをあかしする人になりたいと思います。

たよ サッポロ便り4

しょう とも あゆ さっぽろたいかいじっこういんかい
障がいと共に歩む札幌大会実行委員会
じむきょくちょう きくち ひではる
事務局長 菊地 秀治

ねん じゅんび すす にほん
3年をかけて準備を進めてきた、日本カト
リック障害者連絡協議会（以下「カ障連」）・
だい かいぜんこくたいかい しょう とも あゆ さっぽろたい
第12回全国大会「障がいと共に歩む札幌大
かい しゅ しよくたく まね もの さいわ まね
会／主の食卓に招かれた者は幸い～招かれ
よるこ ねん がつ にち にち
ている喜び～」が、2015年8月22日～23日、
さっぽろ し ふじよ し だいがく かいじょう ぜんこく
札幌市の藤女子大学を会場に、全国から492
にん むか せいだい かいさい どうじつ おうえん
人を迎え盛大に開催されました。当日の応援
サポーター 43人を併せると535名にも及びま
す。



いちにちめ きちょうこうえん
一日目の基調講演
うらかわ いえ
は、「浦河べてるの家」
りじ むかいや ちいくよし
理事・向谷地生良氏が
びょうき ちから げんちょう
「病気のカ～幻聴さん
いらっしやい」と題し
とうじしゃ にん とも とう
て当事者4人と共に登

だん びょうき ちから い
壇。病気のカを活かした「べてるの家」での

と く しょうかい かいじょう いっき
ユニークな取り組みが紹介され、会場は一気
になごやかに。その後の分科会は10テーマ29
グループに分かれ、それぞれの想いを活発に
いけんこうかん ぶんかかい こんしんかい
意見交換しました。懇親会ではサポーターか
ぜんこく さん か しゃ うた ひろう
ら全国の参加者への歌のプレゼントが披露さ
れ、「アーメンハレルヤ+神様といつも一緒」
が参加者全員の大合唱となりました。

ふつかめ ぜんたいかい だいひょう
二日目の全体会では、29グループの代表と
して、10グループから分かち合いの報告をし
ていただきました。最後に大会のクライマッ
クスであるミサが開祭。勝谷司教様と全国
から集まった11人の司祭によるミサで参加
ころろ ひと かんしゃ よるこ しゅ
者の心は一つになり、感謝と喜びのうちに主の
しよくたく かこ しんぶん ねん
食卓を囲みました。（カトリック新聞2015年
がつ にちだい ごうさんしょう
9月6日第4305号参照）

ぜんさん か しゃ にん いっばんさん か しゃ
全参加者492人のうち、一般参加者は313
にん サポーターは179人。また、カトリック
しんと めい とお か ごしま ながさき ふくおか
信徒は450名で、遠くは鹿児島、長崎、福岡
きょうく ぜんこく きょうくちゅう きょうく さっぽろきょうく
教区など全国16教区中、12教区（札幌教区
ほんしゅうきょうく さん か
285人、本州教区165人）から参加がありま
した。障がい申告のあった参加者は144人
（29.3%）で、障がいの内訳は、肢体41人
くるまいす にん しかく にん ちょうかく にん ないぶ
（車椅子11人）、視覚21人、聴覚26人、内部7





人、知的18人、精神38人、発達8人、その他5人。

当初の予想をはるかに超える参加者数のため、第二会場を設け、多くのサポーターはビデオ放映による参加となるなど、予定通りに進まない事態もありましたが、札幌マックや北海道ダルクの応援を頂き依存症の分科会が実現しましたし、力障連全国大会としては今回初めてハンセン病元患者の参加も実現することもできました。また、カリタスジャパンからの支援及び札幌教区内と全国の皆様から寄せられた3年間の寄付3,451,340円を参加

者交通費補助に充当することもできました。大きな混乱や事故もなく、そして何よりも参加者全員が喜びに満ちた笑顔で会場を後にする姿をお見送りすることができましたことは、私達サポーターにとって何よりも大きな喜びでした。大会へ思いを寄せてくださったすべての方々に紙面をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また私達は、大会の参加を申し込まれたおひとりおひとりに、旅費や道中の不安が少しでも和らぐよう、そして大会期間中必要なお手





伝つたいがないかどうかなど、電話でんわやファックス
 でお話はなししをさせていただきます。このお話
 を通とおして、大会期間中はいつでも休養でき
 る静養室せいようしつ（ベット3台とソファ）や、オム
 ツ交換室こうかんしつを設けることができた他、貸し出し
 用車椅子ようくるまいす、体温調整たいおんちようせいに必要なアイスノン、
 経口補水液等けいこうほすいえきなども事前準備じぜんじゆんびし、冷蔵庫れいぞうこも配備はいび
 しました。また、伺った障がい情報は適宜サ
 ポーターに連絡され、会場の座席配置、車両
 の優先駐車、昼食の受け取り場所、障がい
 者用トイレの誘導方法など、各部門ではあら
 ゆる対応について当日まで幾度も打合せを重
 ね、皆様をお迎えする準備を整えてまいりま
 した。

一方で、皆様とお話を重ねるうち、それま
 での人生や札幌大会への想いに触れることも
 たびたびありましたし、ご事情によってやむなく
 参加を取りやめた方のお気持ちにも寄り添う
 ことができました。申込書からは見えてこな
 い、そして表には現れないであろう本当にた
 くさんのドラマがあり、その一人ひとりによ
 ってこの大会が彩られていることを私たちは
 知ることができました。このふれあいを通し
 て大会が始まる前から皆様と出会い、生涯忘
 れることのできない大切な思い出となりました
 たことを、北海道のサポーター一人ひとりが
 感謝と共に喜びを噛みしめております。また

いつの日か皆様との再会が叶いますように。
 本当にありがとうございました。

なお、11月28日（土）はサポーターの皆さ
 んと共に「感謝の集い」を開催する予定です。
 昼食を挟んで3年間の思いを語り合い、カ
 障連大会の様子をDVDで鑑賞します。

さっぽろたいかい さんか 札幌大会に参加して

よこはまきょうくちようかくしょうがいしゃ かい にしざわ じゆんいち
 横浜教区聴覚障害者の会 西澤 純一

8月22日から23日にカトリック障害者連絡
 協議会主催の第12回「障害と共に歩む札幌
 大会」が藤女子大学で行われた。参加者は約
 500人も集まった。私は航空機の手続きで遅
 れて開会式や向谷地生良さんの基調講演に
 参加できず、分科会から参加した。分科会
 では「教会は障害とどう歩むか」に参加して
 はな話し合った。障害者を信徒として受け入れる
 には、設備だけでなく、障害者差別をなく
 す為には弱い立場に立って共通意識を積み重
 ねていく努力が必要であることを確認した。
 宿泊先のホテルで時間を過ごした時、目前に
 北海道大学があり、広い校内を散策しました。
 ボブラの並木道は見事でした。また、白樺の



北海道大学の白樺の並木道

並木道も美しくかったです。

23日の全体会では各々のメンバーが会議の内容を発表し、特に印象に残ったのはハンセン病信者の社会的な差別だった。我々の認識と違うひどい差別的な扱いに大きなショックを受けた。社会が障害者を同じ人間として対応できるように変えなければならないと痛感した。終了後のミサはベルナルド勝谷司教様らによる11名の司祭の進行で行われた。障害者と健常者が一つになって食卓の喜びを味わった。私たちはキリストの福音を伝えながら障害者の壁を打ち破らなければならないと思いました。あらゆる人に神からの祝福があたえられますように。

さっぽろたいかい かんしゃ こ 札幌大会への感謝を込めて

うんえいいいん おおさかだいしきょうくせんなんきょうかい
運営委員 大阪大司教区泉南教会
たなか みのる
田中 実

お疲れさまです。札幌大会が期待通り盛会に終わりました。感謝の気持ちで一杯です。私は、前期力障連事務局長として準備委員会の段階で関わらせていただきました。場崎神父様を中心に小さなグループからスタートをされて、素晴らしい大会運営が可能となる体制に育てあげられたことは、祈りと生き辛さへ共感する人の輪がうみだした大きなエネルギーだと思えます。正に力障連のシンボルマーク（わ）が実践されたと感慨深いです。

初めての大会運営で慣れないこともあったと思えます。札幌での開催ということで地理的・資金的にも課題がたくさんあったと思えます。札幌教区として認可された一つの障害者・病者団体がなかったのですが、個々の障害者・病者団体が連携し軸となり実行委員会を形成し大きなネットワークに繋がられたことは、力障連が求めてきた道筋を作られたものだと思います。

準備の段階で、障害とはそもそも何であるのか、力障連大会を何故札幌で開催するのかということ、しっかりと議論をされて進めたいかれたことは大切なことだったと思えます。私たちが抱える生き辛さはどこから来るのか？どう整理して生きていくのか？素朴な疑問でもあった訳です。

私の解釈ですが、生き辛さを抱えて生きていく方は障害者手帳を持っている方だけではありません。神から与えられた生の中ですべて

ての方が抱えていることだと思えます。私たちが生きていく人との関わりの中で神が準備されたものだと思います。

障害や病気があるなかで、それを与えられた恵みだとか、役割的な位置づけをされてはたまりません。しかし、その現実と関わるなかで救いの目覚めが与えられるのかもしれない。しっかりとお互いの生きざまに感心をもって生きることからスタートだと思っています。

最後に、札幌実行委員会の皆様にお詫びをいたします。カ障連役員会からの札幌への十分なフォローが出来ず申し訳なく思います。今後、札幌教区で障害者・病者の輪（わ）が更に広がることを祈っています。ありがとうございました。

ねん しょうれんだい かい 2015年力障連第12回 ぜんこくたいかい さんか 全国大会に参加して

なご やきょうく あかば えゆり こ
名古屋教区 赤波江百合子

障がいと共に歩む札幌大会に、名古屋からは24名参加しました。

大会テーマである「主の食卓に招かれたものは幸い 招かれている喜び」私どもも招かれている喜びを感じました。名古屋は社会福祉法人AJU自立の家の職員の方の応援を得ての参加でした。知的障害の娘を含め、老、障、介護の参加となると現実には難しいものがあります。応援がなければ、招かれている喜びだけでは参加できません。終始付き添って頂けたことに感謝でした。

札幌の方々には2年半にわたって、祈りと

奉仕の心で準備されたとのことで、当日の会場では、サポーターの方々が笑顔で迎えてくださり、困りごとにも笑顔いっぱいに対応して下さってました。障がいに応じての対応で、車いすのトイレは何階が大丈夫です、とか、どこのエレベーターを利用してくださいますか、とか、本当に迷うことなく利用できました。名札も裏表に、分科会、教会、名前は勿論のこと細かく記入されて、素晴らしいと思いました。

名古屋大会の時には思いつかなかったですね。

障がい者家族として感じたことは、障がい者の方の参加が少なかったように思ったのは、重度の障がいの方が少なかったからでしょうか。

基調講演 病気のカ～幻聴さんいらっしゃい～ 講演は講師一人ではなく精神障がいの当事者方が壇上に上がって、一人一人が自己病名を説明し、それに講師が補足したりでしたが、「障がいバラバラ病」「人間関係失調症太り」「我慢タイプ」「人生の横道それ病」「ダメダメ病」とか。申し訳ないですけど、思わず笑い出していました。もちろん、病院でつけられた病名ではなく、講師の先生が当事者と寄り添う中でつけられた病名だと思います。

心の病は辛いけど、生き方、暮らしやすいなど、病気そのものが悪いのではなく、横道にそれるのではなく、学ぶことだと思う。人の評価に左右されることなく、寄り添ってくださる方を信じて学ぶことの大切さを感じて帰ってきました。

障がい者の家族として、自己中心になっている自分に反省もあり、学ぶことの大切さをわすれていることにも大いに反省です。

あたま やわ ひと いけん みみ かたむ
頭を柔らかくして、人の意見に耳を傾ける
ところ も あ ろうじん しょう しゃ
心を持ち合わせて、老人だから、障がい者
だからではなく、どんな困難な時でも神様に
あい さい こと き とも よろこ ねが
愛されていることに気づき、いつも喜びを分
かち合える大会であってほしいと願っています。

さっぽろたいかい さんか 札幌大会に参加して

うんえいいいん どうきょうだいしきょうくでんえんちようふきょうかい
運営委員 東京大司教区田園調布教会
かたやま こういち
片山 功一

ことし たいふう おお ひこうき と
今年は台風が多かったので、飛行機が飛ぶ
かどうか不安で週間予報と睨めっこしながら
どうじつ むか
当日を迎えました。

あさ はね だくこう ちとせくこう む きない
朝、羽田空港から、千歳空港に向かう機内
たいかい なかま むね おど
で大会でどんな仲間がいるのか胸を躍らせな
がら、1週間前に依頼された総会の閉会の挨拶
しゅうかんまえ いらい そうかい へいかい あい
をプリントアウトした原稿を見ながら頭の
なか ほんすう
中で反芻していました。

さっぽろ つ かいじょう ふじじょ だいがく
札幌に着くとタクシーで会場の藤女子大学
つ たくさん かいじょう
に着くと、沢山のボランティアがいて会場ま
で迷う事なく着きました。ボランティアの多
さにかんどう かんしゃ
さに感動と感謝です。

かいじょう はい なつ ひとたち かお たくさん み
会場に入ると、懐かしい人達の顔が沢山見
えて、お互い再会を喜び合いました。しばら
くすると、総会がはじまり議事が進行するう
ちじょじょ きんちよう ぶじ へいかい
ちに徐々に緊張してきましたが無事に閉会の
あいさつ こと で き しゅっしんち きょうく
挨拶をする事が出来ました。出身地の教区の
ひとたち てまえ い たいへんありがた
人達が手前に居たのも大変有難かったです。
ごご きちようこうえん いえ むかい や
午後の基調講演では、『べてるの家』の向谷
ち すうめい どうじしゃ なかま
地さんと数名の当事者の仲間のパネルディス
カッションでした。当事者の仲間はユーモア
を織り交ぜて話してくれて、底抜けの明るさ
うら くら か こ おも は
の裏にある暗い過去に思いを馳せていまし

ぶん かかい いぞんせい ぶん かかい さんか
た。分科会では『依存性』の分科会に参加し
ほつかいどう いぞんせい なかま ほかい いぞん
北海道のアルコール依存性の仲間や他の依存
せい なかま あ ゆうい ぎ わ あ
性の仲間とも会い有意義な分かち合いがで
きました。懇親会では群馬の仲間と食事をしま
した。

ごしんきゅう やくいんかい ひら ごじつ
その後新旧の役員会を開きましたが、後日
し こんしんかい ご やぎぶし
知ったのですが、懇親会後のロビーで八木節
を踊っていたとの事、考えると役員会の時に
おど こと かんが やくいんかい とき
踊っていた事になる…残念。翌日は、分科会
おど こと ざんねん よくじつ ぶん かかい
の報告とミサ、多勢の神父様に依る共同司式
ほうこく たせい しんぶさま よきょうどうしき
ミサは圧巻でした。ミサが終わり散々五々の
あつかん お さんさん ご
解散となりました。

あつ ひ ぎ なか あきかぜ かん ごご
暑い陽射しの中にも秋風を感じる午後でし
た。最後になりましたが、3年間という短い
さいご ねんかん たん
期間で準備を進めてきた、力障連札幌大会実
き かん じゅんび すす しょうれんさっぽろたいかいじつ
行委員会の皆さんに感謝します。

さっぽろたいかい かんどう 札幌大会に感動

うんえいいいん こうほうたんとう
運営委員 広報担当

きょうく たかさききょうかい こいけ まさお
さいたま教区 高崎教会 小池 政男

ねんまえ しょうれん じ むきよくちよう とき な
5年前力障連の事務局長している時に、名
ご や たいかい つぎ さっぽろ かいさい ほ さっぽろ
古屋大会の次に札幌で開催して欲しいと札幌
だんしんたい
に打診致しておりました。

ねんまえ さっぽろきょうく じむきよく ちようかくおよ
そして3年前に札幌教区の事務局、聴覚及
し かく かい かいごう ちようせい いただ かいちよう
び視覚の会の会合を調整して頂き、海野会長
だいこう とも さっぽろ いっぱくふつか で
代行と共に札幌に一泊二日でお出かけしました。

ま いちにちめきょうく じむきよく ほうもん
先ず一日目教区事務局を訪問、そして
ふつかめ ばさきしん ぶさま きた じょうきょうかい
二日目に場崎神父様がおられる北26条教会
ほうもん ごちようかくしやう しゃ かいごう ばさき
に訪問し、ミサ後聴覚障がい者の会合に場崎
しん ぶさま どうせき なか かいさい ねが
神父様も同席した中で開催のお願いをいたし
ましたが、最初は難しいお話でした。しか
さいしょ むずか はなし
し、力障連大会は全国から参加される方々の
しょうれんたいかい ぜんこく さんか かたがた

ただけにあるのではなく、むしろこの機会に札幌教区の皆さんに障がいについて理解して頂くための絶好のチャンスにして欲しいと訴えました。開催しなければ障がい者への理解は変わりません。しかし開催すれば大きく意識や理解度が変わってきます。私たちのさいたま教区で開催した高崎大会もそうでしたとお話いたしました。

そして午後は、北1条教会で視覚障がい者の会にお邪魔して同じように訴えました。その結果、双方の会の方々から前向きな反応を頂いたように感じました。そして再び教区事務所を訪問し、本日の両方の会の状況を報告いたしました。その中で同席していた障がいを持つ方から「やってみたくなくなった」と言うて下さいました。その一言を教区として重く受け止めて下さったと私は感じました。

教区事務所を出てから更に私の有力な知人にも開催についてお願い致して千歳空港の最終便で羽田に帰ってきました。

数日後に場崎神父様から開催を承諾して頂ける文書を頂いた時には大きな感動を受けました。そして名古屋大会に札幌方たちが下見を含めて参加して下さい、名古屋の実行委員の方たちのご指導も頂くことが出来ました。

そして札幌の実行委員会は最初から精力的に活動して下さい、その成果としてこのよう

な予想をはるかに超えた参加者と充実した大会にして頂きました。さらに感激したことは札幌教区として今年は創立100周年なのにカ障連大会に全力を注ぐために翌年に繰り下げて下さったとお聞きして大きな感動を受けました。

本当に感謝です。この大会に群馬からバス1台36名で新潟港から船でバスごと乗り込み小樽港で下船、そして札幌大会会場へ到着して、温かい歓迎を受けました。

大会内容も支援体制も素晴らしく感激いたしました。

そして大会の閉会式の場崎神父様のメッセージは感激のあまり涙声になった時に、神父様のこの3年間の苦労とこの大会に大勢の参加者と内容の素晴らしさを感じて参加した人たちの感謝の思いを感じて一気に感情が高まり出た瞬間だったと思います。そして苦労した人にだけ与えられる神様の祝福を感じておられると思いました。感動です。

今回の札幌大会は本当に素晴らしい、いや素晴らしいすぎる大会だったと思います。司教様、神父様、そして実行委員会の皆様に本当に感謝です。ご苦労様でした。

この思いと活動が継続するためには、ぜひとも障がい者の団体を立ち上げて頂けますようお願いしております。



やくいんかいほうこく 役員会報告

10 / 10 (土) ~ 11 (日) に掛けて名古屋にて役員会を開催し、その検討内容の主なものを報告いたします。

会議は手話及びパソコン通訳と共に、今回初めて「スカイプ」を使用して、東京の自宅にいる篠原さんと映像および音声で会議内容を伝え合うシステムを導入して開催いたしました。

1 新会長の今後の活動方針

- ① 全教区の障害のある仲間を知るために、全国の小教区にアンケートを配布して実態の把握を行いたい。
- ② 新たな加盟団体づくりを行いたい。
会長が10 / 19 (月) から鹿児島、長崎、大分を訪問し力障連への加盟への参加を呼びかける。東京も立ち上げに向かって動き始めてくれている。
- ③ 障害への理解を深めるために、さまざまな学びの場を提供し、他の障害者との相互の理解を深める。
- ④ 司教団に障害者の権利条約と障害者差別解消法の研修会を要請したい。

2 第12回全国大会・札幌大会について菊池実行委員長の報告に対して感謝の意を伝えると共に11 / 28 (土) 札幌での「サポーター感謝の集い」に江戸会長が参加してお礼の挨拶を行うことになった。

3 今後の年間スケジュール決定

- ① 2016年3 / 11 (金) ~ 12 (土) または3 / 12 (土) ~ 13 (日) にかけて第2回役員会と加盟団体との意見交換会を東京のカトリック会館で開催する。
- ② 7 / 2 (土) ~ 3 (日) 第3回役員会を大阪で開催する。
- ③ 第4回役員会と研修セミナーを11 / 19 (土) ~ 20 (日) に掛けて名古屋で開催する。

4 機関誌「わ」の発行予定。担当は小池運営委員。

第77号 11月下旬に発行予定
第78号 2016年6月発行予定
第79号 2017年3月発行予定

5 力障連のパンフレットの見直しを行う。担当は事務局と田中委員。

6 次期全国大会開催地への交渉。

前役員会で確定していなかったので、改めて開催希望教区への交渉について検討し、開催に向けて交渉していくことになった。
以上



「東京カ障連」(仮称) 立ち上げについての お知らせと集会参加のお願い

全国各地に既にカ障連の加盟団体があり、
さらに江戸会長による九州地区の加盟団体
への働き掛けも動き始めている中で、長年の
夢であった東京にカ障連加盟団体を立ち上げ
る動きが出始めてまいりました。

これまでに東京教区のメンバー等で何回か
会合を重ね、具体的に2016年2月11日（木）
に東京カテドラルで開催される「世界病者の
日」ミサに合わせ、11時からケルンホールに
おいて、「障害を越えて集まろう！」と称し
た東京教区内の様々な障害を持つ方々を主体
とした集会を持つことになりました。

ぜひ一人でも多くの方の参加を頂き、暮し
の中、教会の中で居づらく感じていること、
障害を持つ者のキリスト者としての意味な
ど、心おきなく語り合えればと願っています。

そして長年の夢であった東京カ障連が歩み出
せればと思っております。

東京カ障連に対する皆様のお祈りをお願い
し、多くの参加を心からお待ちしております。

2月11日集会の問い合わせ先：(TEL&FAX)
042-324-3669 西田(昼食は各自ご用意下さい)

◎会報「わ」の点字版・テープ版につ
きましては事務局までお申し込みく
ださい。

◎カ障連の活動にご理解とご支援をお
願いします（同封の振替用紙をご利
用ください）。

日本カトリック障害者連絡協議会会報

事務局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15

カトリック名古屋教区社会福祉委員会室内

Tel：052-852-1426 fax：052-841-2225

郵便局振替口座番号：00100-7-31254（同封の振替用紙をご利用ください）

会費：年間1口 1,000円（団体 10口以上 個人 1口以上）

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会